

ブログを活用した作文指導の実践とその可能性

加藤 敦子

1. はじめに

本稿は、当時筆者の勤務先であったソウル女子大（大韓民国ソウル市）において2006年に実施したブログ¹⁾（ウェブログ，以下ブログ）を活用した日本語作文指導の実践報告とその成果についての考察である。

2002年頃から日本でも普及し始めたブログは2005～06年急激に利用者を増やしていた。2006年には「世界のブログ投稿数の37%が日本語によるもの²⁾」という調査結果が後に出るほどにブログ流行の様相があった。一方で、2004年にサービスを開始したmixi、2006年から誰でも利用できるようになったFacebook³⁾など、新たなSNSが広まりつつあった。

そうした状況の中で2006年にブログを利用した日本語作文指導を実践した筆者は、ブログというツールの将来性が不透明であったためにブログ活用の実践報告に慎重になっていた。しかし、2012年現在、インターネットサービスの多様化した状況でも、ブログは一定の地位を占めている。筆者は、ブログが作文教育に効果的なツールであり、今後の授業でもブログを活用したいと考えている。そのためにも、改めて実践報告と考察を行なっておく⁴⁾。

2. ブログ導入の経緯

2.1 外国語としての日本語作文教育の問題点

筆者はこの自主ゼミの指導に当たるまで韓国の大学において6年半の日本語教育歴を持ち、海外で日本語教育を行う場合の問題点を様々実感していた。作文教育に関しては次のような問題を感じていた。

(1) 文章を書く動機が弱い

授業における作文指導は、教員が与えた課題に取り組む形で学生が文章を書くというのが基本である。学生のレベルや意欲に応じて、種々のタスクと組み合わせたり、レポート作成やプレゼン発表をゴールとして設定したり、協働作業によるプロジェクトに組み込んで位置づけるなど、指導には様々な工夫を重ねている。しかし、どのような形でも与えられた課題に取り組むということ自体につきまとう学生側の受け身の感覚を払底することは難しい。

ブログを活用した作文指導の実践とその可能性

(2) 読者は教員

授業で学生が書く作文は、ほとんどの場合、読者が教員に限定される。授業中に学生同士のピアレビューを行うとしても、読者は仲間内にとどまる。タスクによっては読者を想定した設定で文章を書かせることもあるが、仮想の読者をリアルに想定することは難しい。

(3) フィードバックの限界

作文指導で学生の書いた作文を評価・フィードバックするのは教員である。そのため、往々にして学生は教員から評価されることを目的に文章を書くことになる。読者を想定して文章を書く場合も、想定読者からリアルなフィードバックを受けることは期待できず、教員のフィードバック、すなわち教員の評価が意識されることになる。

2.2 自主ゼミ概要

2006年2学期、学生の自主ゼミ⁵⁾において指導教員として学生の指導に当たることになった。作文能力向上をゼミの目的とした。

自主ゼミは学期を通じて授業とは別の課外活動として行われる。学校行事や試験の期間には活動を休止するため、ゼミとしては、週1回90分、正味10週の共同活動が期待できた⁶⁾。

自主ゼミの参加学生は3、4年生5名で、日本語能力試験1級または2級合格レベルの日本語能力を持っていた。提携大学との交換留学制度で1年間日本の大学に短期留学した経験を持つ学生も含まれていた。既存の一般的な教材を採用した指導では対応しきれないレベルであり、日本語を母語とする者の水準に近い文章作成能力の養成を目標に掲げることが求められていた。

2.3 ブログ利用の利点

このような状況で、作文指導に当時急激に普及しつつあったブログを利用することを検討した。2.1で挙げた(1)～(3)の問題点の解消につながるのではないかと考えたからである。

ブログ利用の利点は大きく2つの観点から次のように整理できる。

(1) 発信ツールとしての利点

- ・全世界へ発信できる

インターネット環境が整っていれば、わずかな費用と手間ですべての国々に向けて自分の書いた文章を発信することが可能である。日本語ブログであれば、インターネットに接続して日本語を理解する世界中の人々を対象に文章を公開することができる。

- ・リアルなコミュニケーションが可能

日本語を学習していても、実際に日本人とコミュニケーションする機会は限られている。特に、日本国外に居住する日本語学習者の場合、日本人とリアルなコミュニケーションを持つ機会が少ない。ブログを利用すればネット上でリアルなコミュニケーションが可能となる。

・時間・空間的な制約がない

現実のコミュニケーションは、時間と場所の制約を受ける。時間と場所の接点がない人と直接的なコミュニケーションするのは難しい。しかし、ブログにおいては、ブログ記事を読む、記事にコメントする、コメントに返信するというコミュニケーションが時間や空間の制約なしに可能となる。韓国にいる韓国人学生がブログに記事を投稿し、日本にいる日本人がブログ記事を読んでコメントを書き込み、韓国の学生がそのコメントを読んで返信する、というやりとりを各人の都合のよい時間と場所で行うことができるのである。

・サービスの利用が容易

ブログサービスは多くのインターネット関連企業が提供している。そのため、簡単な登録手続きで利用が可能であり、基本的な機能は無料で使えることが多い。手間と費用をほとんどかけずに誰でもブログを開設することができる。

・操作が容易

登録時に設定したIDとパスワードでログインすれば、簡単な操作で自分の書いた文章をインターネット上に公開することができる。コンピュータやインターネットに関する専門的な知識はほとんど必要なく、誰でも操作が可能である。

(2) 表現ツールとしての利点

・能動的な発信へ

ブログに記事を投稿することは、読者を強く意識した文章作成につながり、より能動的、自発的な行為として作文に取り組むことができると期待される。

・動機の強化

ブログへの投稿、読者の存在を意識することで、文章を書く目的や目標が明確になり、作文に取り組む動機を強化できると予想される。

・文章表現・内容の吟味

ブログへの記事投稿は理論的には全世界の人々の目に触れる場所に文章を掲示することを意味する。また、読者のコメントが期待できる場に文章を発表することで、文章のテーマや内容を吟味し、文法や表現について注意深くなることが期待される。

・プレゼン能力の向上

不特定多数の読者に読まれることを意識したブログ記事を書くことで、その記事が読者にどのような印象を与えるか、どのように提示すれば興味を持ってもらえるかを考えることになる。こうした姿勢が文章を通じてのプレゼンテーション能力の向上に役立つと考えられる。

以上のような利点の反面、ブログ利用には、学生の不適切な発信、コメント欄の荒らし・炎上といった問題が生じることも危惧された。

これらの問題点については、自主ゼミの時間内で学生に十分な指導を行い、読者コメントの事前承認制を取ることで回避できると考えた。

3. ブログ活用の実際

3.1 目標

日本語の文章表現能力を磨き、日本語母語者とのリアルなコミュニケーションを実践する。リアルなコミュニケーションを通して、日本語のプレゼンテーション能力を向上させる。具体的には、自主ゼミの学習活動として作文を書き、それをブログ記事として投稿する。記事にコメントが付いた場合は、コメントを読んで返信する。これを繰り返すことで作文能力の向上を図る。

3.2 導入準備

(1) ブログサービスの選択

日本国内で運営されている日本語のサービスを選択した。これは、日本語のインターネットサービスを利用するのも日本語能力向上の一方策と捉え、また、将来学生が日本語によるインターネットメディアを利用する可能性を考慮したためである。

さらに、無料で利用できること、機能と操作がシンプルで使いやすいこと、商用広告が表示されないことを選択の基準とし、gooのブログサービスを利用することにした。

(2) ユーザー登録

ブログサービスの多くは、名前・居住地（都道府県や郵便番号）・生年月日などを登録するだけでユーザー設定ができる。教員（加藤）の個人データを用いて必須項目のみ最小限の情報を登録して、ブログを開設した。

(3) ブログのタイトルとデザインの決定

ブログのタイトルは「ようこそ！ SWU」とし、デザインは偏向を排してシンプルなものを選んで設定した。

(4) ID・パスワード情報の共有

教員と学生間でID・パスワード情報を共有し、全員がブログサービスに直接ログインできるようにした。共有したIDとパスワードの取り扱いについては、他人に教えたり、他人の目に触れるところに書き記したりしないように、セキュリティの観点から注意を喚起した。

(5) 記事投稿操作の確認

全員が実際にPCを使ってログインとテスト記事の投稿を行い、操作の確認をした。[図1]

以上、(1) から (3) は教員主導で事前準備として行い、(4) (5) は第2週目の自主ゼミの時間にガイダンスとして行った。

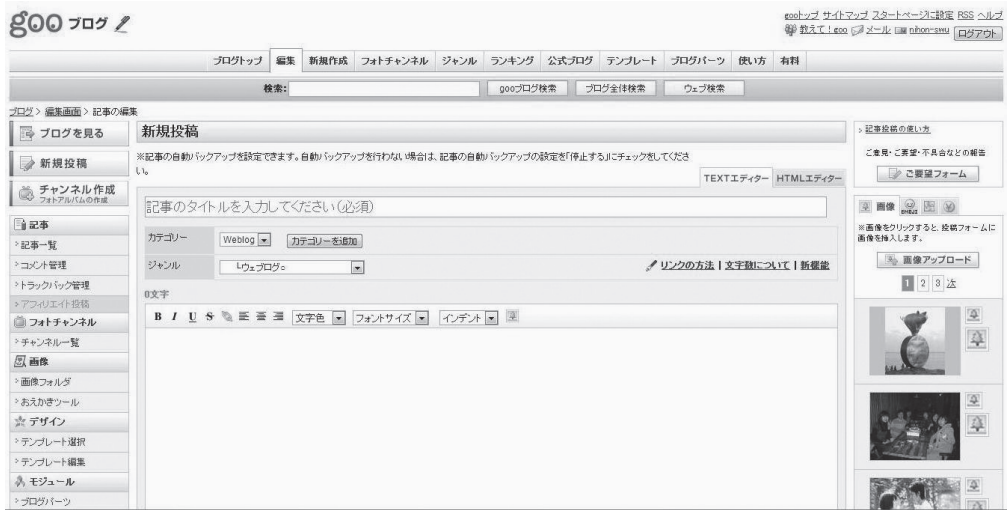


図1. ブログの記事投稿画面

3.3 実践

自主ゼミの活動は次のようなスケジュールで進行した。

〈第1週〉

- ・自主ゼミの目的と学習目標の説明
- ・ブログ開設の意図説明
- ・今後のスケジュール決定
- ・1回目記事は「自己紹介」

〈第2週〉

- ・「自己紹介」の作文提出
- ・学生同士でピアレビュー
- ・教員のアドバイス・添削
- ・ID・パスワード情報の共有，情報管理の注意
- ・ブログへのログイン，記事投稿操作の確認

〈第3週以降〉（繰り返し）

- ・ブログ画面で記事の確認
- ・コメント対応の指導
- ・毎週2人が記事を事前に作成
- ・ピアレビュー
- ・教員のアドバイス・添削

3.4 教師の役割

自主ゼミの進行と並行して、教員は次のような指導を行った。

第1週の自主ゼミ終了後、教員側でユーザー登録とブログの開設、ブログタイトルとデザインの設定までを完了させた。

第2週の自主ゼミ終了後、学生は添削された自己紹介文を持ち帰り、ピアレビューと教員のアドバイスを踏まえて記事を完成させて各自がブログに投稿したが、その前に教員が最初の記事を投稿した。[図2]内容はブログ開設の挨拶文で、ブログの目的を手短かに説明したものである。さらに、学生が自己紹介を投稿した後、教員の友人知人にブログの開設を知らせてブログの趣旨を説明するとともに、ブログの読者となって学生の記事にコメントをしてほしいと依頼した。依頼先は、教員の直接の知人で、日本在住の日本人、ネット上での交流に慣れている人、韓国の社会や若者に関心のある人に限定した。

第3週以降は学生の作文へのアドバイス、ブログ上に公開された記事のレビューに加えて、読者のコメントへの対応を指導した。自分の記事にコメントが付いた場合は、必ず返信のコメントをするように指導し、どのような返信をすべきかについても自主ゼミで学生たちに考えさせた。コメントはすべて承認制としており、教員が目を通して問題ないと判断したもののみをブログ上に表示した。結果的に、スパムコメント以外はすべてそのままブログ上に公開され、学生とのやりとりが行われた。また、時に教員がコメントを書き込み、コメント欄での交流を促すための話題提供や軌道修正を行った。



図2. 最初に教員（加藤）が投稿したブログ開設の挨拶文



図 3. 学生の投稿した記事

4. ブログの成果

4.1 投稿記事

ブログは、2006年9月12日に教員によるブログ開設挨拶の記事、それに続く5人の学生の自己紹介記事から始まり、同年12月26日、コメントを書き込んでくれた読者へ感謝の気持ちを伝える記事まで3ヶ月半にわたって運営された。この間、投稿された記事は34本、内4本は教員による挨拶・告知などの記事で、学生たちの書いた文章は30本、一人平均6の記事を書いたことになる。1本の記事は、自己紹介が200字前後、その後の記事は450～900字であった。[図3]

4.2 コメント

記事にコメントを寄せてくれた読者は10名であった。総コメント数は170件に及んだ。[図4]内訳は、読者からのコメントが135件、学生からの返信が30件、教員のコメントは5件であった。読者のコメント数に対して学生のコメント数が少ないのは、学生側は複数のコメントに対する返信を1件のコメントにまとめて書いた場合があるためである。

読者からのコメントは、学生の記事1本につき4.5件。元の記事より長文のコメントも散見した。[図5]

ブログを活用した作文指導の実践とその可能性

	状態	田	タイトル	投稿日時▼	投稿者名	ecolD	記事ごとの管理	閲覧
記事一覧								
コメント管理	公開	田	つづき	2006-10-28 16:36:51	坂上一郎		テンジヤンニョー - キム・ユニ	6/6
トラフィック管理	公開	田	テンジヤンニョーに関する考察に寄せて	2006-10-28 14:43:59	坂上一郎		テンジヤンニョー - キム・ユニ	6/6
ブログエイト投稿	公開	田	Unknown	2006-10-24 22:26:43	キム・ユニ		文字か文様か - キム・ユニ	6/6
フォトチャンネル	公開	田	つづきのつづき	2006-10-24 10:03:47	坂上一郎		【韓国】住民登録法とブライジン	6/6
チャンネル一覧	公開	田	つづきのつづき	2006-10-24 10:03:47	坂上一郎		【韓国】住民登録法とブライジン	6/6
画像	公開	田	レレレさん	2006-10-24 00:24:08	南塚力丸		文字か文様か - キム・ユニ	6/6
画像フォルダ	公開	田	つづき	2006-10-23 13:39:42	坂上一郎		【韓国】住民登録法とブライジン	6/6
お楽しみメール	公開	田	日本の実情	2006-10-23 00:01:23	坂上一郎		【韓国】住民登録法とブライジン	6/6
デザイン	公開	田	キムが食べた	2006-10-22 23:01:04	杉浦 肇		経理がノードする結露 - 宇知	6/6
テンプレート選択	公開	田	わたしはまだです	2006-10-22 22:17:45	杉浦 肇		【美人】豊州(キョンジュ)にー	6/6
テンプレート編集	公開	田	他人情報ってむずかしい	2006-10-22 21:53:27	杉浦 肇		【韓国】住民登録法とブライジン	6/6
メニュー	公開	田	学生時代の韓国イメージ(1)	2006-10-22 09:12:28	櫻橋 昌行		私にとっての日本。(Part2) -	6/6
プロフィール	公開	田	昨夜の続き	2006-10-22 00:29:31	坂上一郎		【美人】豊州(キョンジュ)にー	6/6
カテゴリー	公開	田	韓国を名目日韓の祝明けコラム	2006-10-21 18:04:02	高崎 誠		【美人】豊州(キョンジュ)にー	6/6
ブックマーク	公開	田	私も行きましたよ	2006-10-21 03:00:01	坂上一郎		【美人】豊州(キョンジュ)にー	6/6
設定	公開	田	豊州のお勧めの場所	2006-10-20 20:33:59	高崎 誠		【美人】豊州(キョンジュ)にー	6/6
ブログ設定	公開	田	日本語のこと	2006-10-20 20:25:53	高崎 誠		私にとっての日本。(Part1) -	6/6
ユーザー設定	公開	田	高橋さん、コメントありがとうございます。	2006-10-20 10:08:51	キム・ユニ		私にとっての日本。(Part1) -	6/6
外部サービス連携	公開	田	大長今と料理	2006-10-19 02:02:33	坂上一郎		経理がノードする結露 - 宇知	6/6
アドセンス(コメントタウン)	公開	田	取りとめの悪い話し	2006-10-18 02:22:29	坂上一郎		経理がノードする結露 - 宇知	6/6
アドセンス(記事)	公開	田	韓国語の勉強のこと	2006-10-17 13:18:36	高崎 誠		文字か文様か - キム・ユニ	6/6

図 4. コメント一覧 (一部)

が動く! ? 続きはアプリで→

フォトアルバム | 記事を書く | 検索

大ショック!! だったホームステイ - チャンジンへ

>> もっと見る

携帯



URL をメールで送信

GOO ブログ

goo おすすめ

goo スマホ部がレポート

キップgooで楽しもう!

【話題のブログ】

試合の後、日本のサポーターがとった行動は

「美瑛町の青い池」がアップル社のWallPaperに

>> もっと見る

トップ / ブログ

メール

コメント日が 古い順 | 新しい順

日本のお笑い番組 (坂上一郎)

2006-12-13 14:31:13

日本でもかつて「シャボン玉ホリデー」とか「6時だよ全員集合」とか、タイトルは忘れましたが軟本欽一(私の名前と酷似した坂上二郎と漫才コンビ)を組んでいたがメインを務めた番組等、幾つかのコーナーに分かれた構成のお笑い番組がありました。しかし、最近ではこのようなお笑い番組は影を潜めてしまったようです。一方、大阪の吉本興業に所属するお笑い芸人(多くは漫才コンビ)を中心に、お笑い芸人達のテレビへの露出は凄まじい限りです。政治討論、スポーツ、クイズ、バラエティー等々あらゆる番組に彼らは進出して来ています。笑いが世の中に蔓延する事を、批判的に見ている訳ではないのですが、私は最近の日本のテレビ番組の傾向はやや辟易としています。日本のテレビ局は芸能プロダクションの力に押されて、あるいは単純に視聴率至上主義の為に、全ての番組をお笑い芸人で賑わうと意図しているようにも思えて来ます。韓国のように趣向を凝らしたお笑い仕立てのミュージカル等を、一日のアクセントとして放映するならば、私も一視聴者として歓迎するのですが、夜の11時以降ともなると殆どの局が似たようなお笑い芸人に占拠されてしまっていて、私の退屈を招かれています。番組の主題はそれぞれでも、彼らは特別に芸人としての個性を表現する訳でもなく、単なる駄洒落や下ネタ、他人を誹謗するような言動を垂れ流して笑いを得ようとしています。現在の日本では、これらの番組が多数の視聴者に受け入れられているのですから、むしろ私が異様なのでしょうか、もっと豊かな笑いを日本人に取り戻して欲しいと願う今日この頃の私です。

お笑い学位 (杉浦 肇)

2006-12-14 21:28:39

タイトル「お笑い三国時代」は、いいタイトルですね。イ・ファンさんのオリジナルですか? 新聞や通勤電車の吊り広告で見ると雑誌の広告のような、はっとひきつける見出しになってますね。しかも、日本人の好きな言葉「三国」時代がぴったり決まっている。「キャギャ」って正に日本語でも通じる感じがなんですね。すこしい。まあ、わたしにとってお笑いのお気楽がいいわけですが、イ・ファンのおっしゃるような企画とか演出がお笑いになっている、というテレビ番組は日本ではあまりないようにわたしには思えます。わたしが日ごろ感心させられるのは、明石屋さんや 泉田伸介のしゃべりです。こういうしゃべりの才能者何とか、学位とかノーベル賞とか与えられないものだろうか? 将棋とか囲碁では名人位だとか本因坊だとか、タイトルがあるのだが。新人漫才コンビなどコンクールみたいなのはやっているけれども、これはタレント発掘の目的とベータ版の市場反応をみる目的だろうかけれども、例にあげた二人ならノーベル賞までいくのではないかと思っています。この二人におんぶにだっこで、番組の企画も演出も要らない。放送局はそんなんで喜んでしまうのではないかとわた

図 5. 日本人読者からのコメント

4.3 記事内容

学生たちが投稿した記事の内容は、初回の自己紹介の他、大学の紹介、日本に対する印象、身近な話題や流行の話題、韓国の文化風習の紹介、韓国社会の問題点指摘と多岐に渡った。次に内容別の主な記事タイトルを挙げておく。

- ・ 日本関連「私にとっての日本」「大ショック!!! だったホームステイ」
- ・ 身近な話題「私の息子、私の弟。」「女はつらいよ。」
- ・ 流行の話題「テンジャンニョ」「お笑い三国時代」
- ・ 韓国文化の紹介「美しい慶州」「ハンガウィと祭祀の準備」「韓国人の宗教観」
- ・ 韓国社会の問題点「韓国の住民登録法とプライバシー」「国際結婚時代（農村チョンガーの結婚問題）」「サウスコリアとノースコリア」（図6）

4.4 インセンティブ獲得

学期末には大学が提示したインセンティブプログラムに応募し、次点に相当する「優秀小学会」に選ばれて10万ウォンの報奨金を獲得した。プログラムへの応募は学生たちの自発



図6. ブログ記事タイトル一覧（一部）

ブログを活用した作文指導の実践とその可能性

的な行動で、ブログのキャプチャー画像を添えた活動報告書を自ら作成して提出したものであった。

5. 学習上の成果

5.1 表現力の向上

ブログにより学生の日本語表現力は確実に向上した。

自分の書いた文章がブログ上に公開され、日本人読者がそれを読むという状況に置かれた学生たちは、文法や表現のミスを犯さないように細心の注意を払って文章を書くようになった。また、日本人読者に理解してもらえ、すなわち日本語らしい自然な日本語表現を用いようとする意識が強くなった。これは潜在的にはある程度身につけていた語彙力や表現力が、日本人読者を意識することで十分に発揮されるようになったものである。

全般的に記事を書き慣れるにつれて文章量が多くなる傾向はあったが、文章の長さは個人的要因（題材の選択、作文能力）による部分が大きかった。むやみに長く書くのではなく、表現・構成の推敲を重ね、読みやすい文章を書こうとする意識が強まった。

また、日本人読者からのコメントは一定水準以上に整えられた教材の文章とは異なる生の文章であり、学生たちが書き手の意図を汲み取ることが難しい場合も少なくなかった。コメント欄でのやりとりは、日本語を母語とする者の書く生の文章の意図を正しく読み取るトレーニングとなり、さらにそれに対してどのように返信をしていくのが適切かを考える貴重な経験となった。

5.2 プレゼン能力の向上

学生のプレゼン能力の向上にも大きな成果が見られた。

まず、回を重ねるごとに題材の選択に読者への配慮が見られるようになった。当初は日本の印象や一般的な韓国人論・韓国文化論をテーマに選んでいたが、学期後半には韓国農村の国際結婚問題や当時ネット上で話題になったブランド志向の若い韓国人女性（テンジャンニョ）など社会的な題材を取り上げることが多くなった。これは日本人読者の興味関心を考慮しての選択であった。

また、記事のタイトルも「女はつらいよ。」「お笑い三国時代」など、日本人の読者を意識して言葉を選ぶようになった。

さらに、ブログでは記事と一緒に写真を投稿することが容易なため、記事内容と関連した画像を掲載するなど、読者の興味を引き、分かりやすく伝えるための工夫が見られた。同時に、記事文章のレイアウトにも配慮するようになった。

5.3 発展的学習への意欲向上

このように、題材を選び、タイトルを練り、画像を添えて記事レイアウトの工夫をするという読者を意識した一連の作業は、発展的な学習への意欲に結びついた。日本人読者に関心を持ってもらうために、新聞・テレビ・書籍などから幅広く題材を探し、新聞記事のデータや参考資料を活用して、自身の思考を掘り下げながら書く、という知的作業が自然と行われていた。こうした作業は相当の負担であったはずだが、学生たちはむしろ楽しみながら積極的に取り組んでいた。

「韓国人の宗教観」「サウス 코리아 と ノース 코리아」の記事は、コメント欄で読者からリクエストがあり、それに応じたものであった。学生には難度が高めのテーマであったが、教員の与えた課題ではなく、自分たちの記事の読者からのリクエストであるがゆえに能動的かつ意欲的にテーマと取り組むことが可能となっていた。

5.4 キャリアパスとブログ

ブログは学生のキャリアパスを意識させるという点でも有効なツールであった。

ブログへの記事投稿を重ねるにつれ、伝統文化に関心がある者、変化の早い若者文化に興味がある者など、個々の学生の関心のあり方の差が浮き彫りになった。お互いの記事を読み合うことで、他の学生との差異から自分自身の興味や志向に気づいた学生もいた。

ブログへの記事投稿と日本人読者とのコメントのやりとりを通して、学生たちは自分がなすべきことを学習した。日本語ができる外国人に日本人が何を求めているかを学び、実際に自分は何が提供できるか、相手の求めるものを提供するために自分は何を身に付けなくてはならないかを自覚したと思われる。

自主ゼミは日本語の文章表現力を高めることが目的であったが、学生にとってはブログの活動が、日本語で日本人とコミュニケーションのできる自分に何ができるのか、自分は何をすべきなのかを考える機会ともなったのである。

これらのことは自分のキャリアパスを意識させ、将来のキャリアプランを考える上でも役立つ経験になったと思われる。

6. 考察

6.1 成果の要因

自主ゼミにおけるブログの活用は概ね成功であったと考える。

成果を挙げることでできた要因は、第一に意欲のある少人数で活動を行うことができ、きめ細かな指導が可能であったこと、第二に自分の書いた文章を日本人読者が読んでコメントするという前提によって、与えられた課題をこなすとは異なる強い動機を維持することが

ブログを活用した作文指導の実践とその可能性

できたこと、第三に日本人読者から配慮のある温かいコメントを継続的に受け取ることができたこと、が挙げられるだろう。

6.2 今後の課題

一方、活動における問題点および今後の課題として次の点があげられる。

(1) 教員主導の進行

学事日程の都合やブログというメディアへの理解度から、ブログ導入は教員主導で行った。しかし、ブログの開設、ブログのタイトルやデザインの決定などから学生たちが主体的に行うのが望ましいと思われる。

(2) 日本人読者の選択

ブログの読者は教員直接の知人に限定した。結果的には、期待を上回る質と量のコメントを得ることができ、日本人とのリアルなコミュニケーションという目的は十分に達成された。しかし、見方を変えれば、コメント欄が教育的配慮の行き届き過ぎた場になっていたとも言える。理想を言えばあらゆる人々に開かれたブログであることが望ましいのであろうが、一方で、教育目的で開設するブログに無用のトラブルを呼び込むことは当然回避したい。ブログの読者をどのように設定し、どのように勧誘するかは慎重な判断が必要である。

6.3 ブログ活用の可能性

(1) 授業のクラスで実施する場合

1クラス20名前後のクラスで同様の活動をする場合、1つのブログを3~5名で運営し、1クラスで4~5つのブログを指導することは可能であろう。その場合は、ブログごとにテーマを設定させる、お互いのブログにコメントを付け合うといった方法でブログを活性化させる方法が考えられる。

(2) 母語の異なる学生グループで実施する場合

1つのブログを複数のメンバーで運営する場合、文化的背景の異なる学生によってバラエティに富んだ記事が投稿されるのはむしろ好ましい。5.4で触れたように、学生はお互いのブログ記事から他の学生との差異に気づき、自分自身を知る。母語の異なる学生の集まったチームは学生の自覚や自主性を引き出す契機となりうる。

(3) 日本国内で発信する場合

日本国内の大学に在籍する留学生の場合、ブログの活用は留学生同士の交流はもちろん、日本人学生との交流の機会になると考えられる。日本人学生と同じ立場で在学している外国人学生は、日本人学生の友達がほとんどいないという者も少なくない。ブログを通して日本語で発信し、ブログの読者として日本人学生さらには教員を引き込むことができれば、留学生の学内コミュニケーションの役に立つ。これまで述べてきたように、ブログを通じての発

信は、活動場所の国内外を問わず、大きな成果を挙げる可能性があると考ええる。

7. おわりに

以上、報告・考察してきたように、ブログを活用しての日本語作文指導は十分に成果をあげることのできる方法である。

ブログの利用にあたっては事前の準備やコメント欄でのトラブル対策が必要となるが、学生の日本語表現力を向上させ、リアルな読者に対して書くことで作文の動機が強化され、発展的な学習への意欲を引き出すことができる。

筆者の実践は、元々は海外において機会の限られる日本人とのリアルなコミュニケーションを求めて実施したものであった。しかし、日本国内で留学生の日本語教育を担当する立場にある現在、国内においても留学生には日本語で発信する機会、日本人とのリアルなコミュニケーションの機会が必要であると感じている。さらに言えば、こうした機会は今や日本人学生にも必要なのかもしれない。

ブログの活用は、日本語表現力の向上、リアルなコミュニケーションの実践、能動的な学習態度の助長、将来のキャリアプラン立案など多様な面での指導を可能にする。日本語教育の現場で、ブログのさらなる有効活用の方法を模索していきたいと改めて考えている。

注

(以下に示す URL は、いずれも 2012 年 10 月 10 日を最終アクセスとする。)

- 1) ブログ「ようこそ！ SWU」blog.goo.ne.jp/nihon-swu/
2006年12月26日の記事を最後に活動を停止したが、当時の内容をそのままに記録として保存している。
- 2) <http://itpro.nikkeibp.co.jp/article/COLUMN/20070411/268068/>
- 3) 日本語版のサービスは2008年に開始された。
- 4) ブログを利用した協働学習の実践報告と考察には、品川恭子「ブログプロジェクト—Moodleを超えた協働学習」(『関西外国語大学留学生別科 日本語教育論集』19号, 2009)がある。
- 5) 韓国の大学で「小学会(소학회)」と呼ばれる勉強会。数人から十数人規模の学生による自発的な課外学習活動で、活動の目的や内容、方法も自由に決めることができる。積極的な小学会活動を奨励する大学が多く、大学公認で指導教員がつくこともある。
- 6) 韓国の大学の学期は、16週(授業14週、試験2週)が基本である。